
びわほなみ栽培暦と 肥料農薬の説明について



令和8年2月13日(金)
JA全農しが 生産資材課 営農技術室

栽培暦の肥料・雑草防除体系

■ 施肥設計例

	分施体系		省力体系	
	肥料名	施用量	肥料名	施用量
土づくり資材	粒状苦土石灰	100	粒状苦土石灰	100
基肥	麦用セラコートR2500(湖辺・平坦)	30	麦パンチ	40
	国産化成肥料444(中山間)	40		
穂肥	麦用セラコートR2500(全域)	40	麦用セラコートR2500	20

■ 雑草防除

(10a当たり)

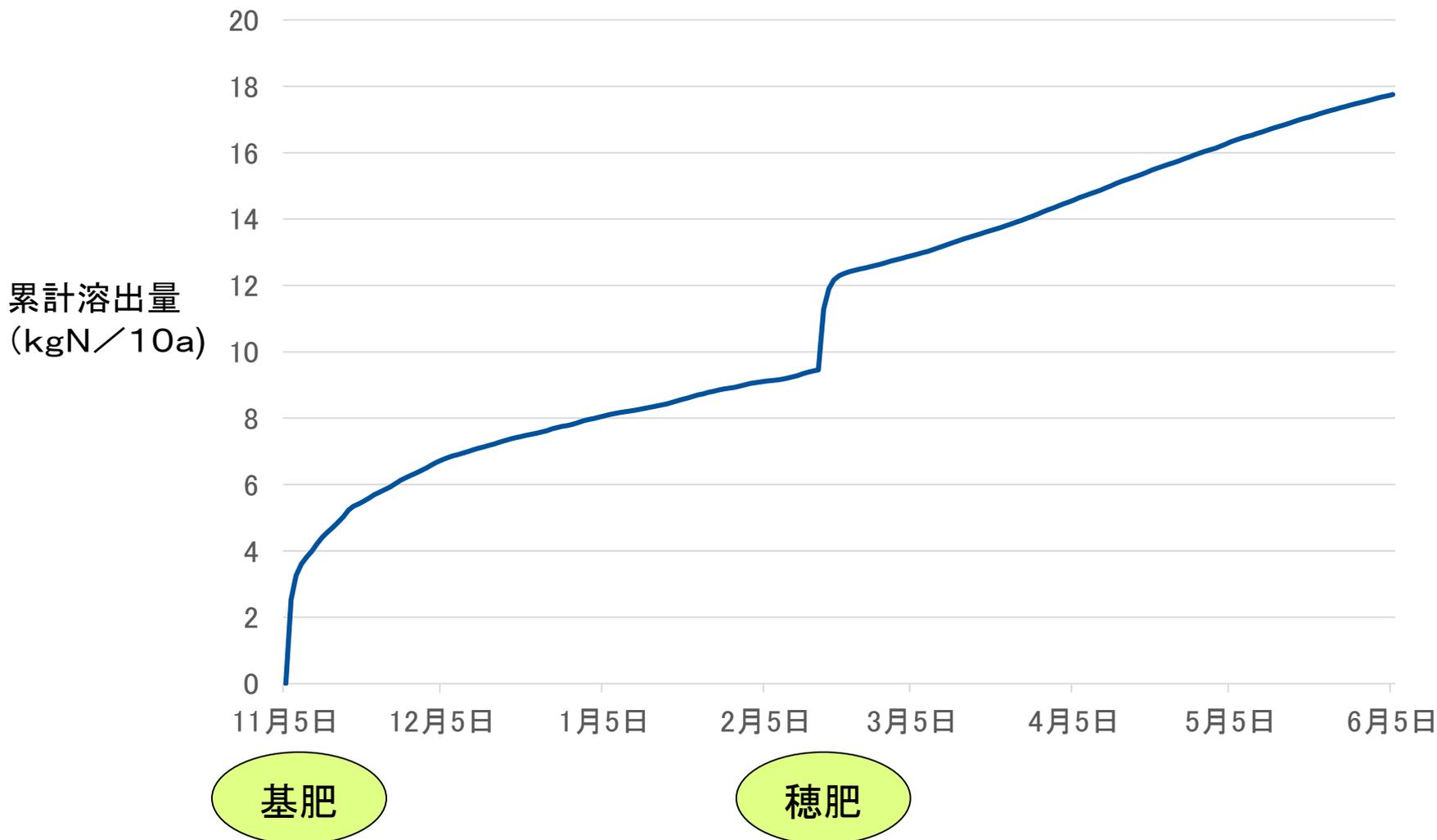
時期	薬剤名	使用時期	使用量
播種時	ハーモニー細粒剤F	播種後～麦3葉期 雑草発生前～発生始期	4～5Kg
	リベレーターG粒剤	播種後発芽前、麦1～2葉期 雑草発生前～発生始期	4～5Kg
	クリアターン細粒剤F	播種直後	4～5Kg
	ボクサー	播種後～麦4葉期 雑草発生前～発生始期	400～500ml/70～100ℓ
2月末 ～	MCPソーダ塩	幼穂形成期(但し収穫45日前まで)	200～300g/70～100ℓ
3月中旬	バサグラン液剤	生育期(但し収穫45日前まで)	100～200ml/70～100ℓ

☆どの除草剤も碎土、整地、覆土を丁寧に行い、所定量を均一に散布すること。

☆MCPソーダ塩とバサグラン液剤は、生えている草に対し、効果があります(土壌処理効果はありません)

省力体系の肥効

麦パンチ(40kg/10a)+麦用セラコートR2500(20kg/10a)



分施体系の肥効

麦用セラコートR2500 (基肥30kg/10a+穂肥40kg/10a)



後発雑草が発生したら・・・

農薬名	一年生雑草	一年生 広葉雑草	ハルタデ	カラスノ エンドウ	スズメノ エンドウ
MCPソーダ塩	○	○	○	◎	◎
バサグラン液剤	○	○	◎	○	○

■カラスノエンドウやスズメノエンドウが多い場合



➡ MCPソーダ塩

■タデ類が多い場合



➡ バサグラン液剤

MCPソーダ塩

適用作物	適用雑草	使用時期	使用量又は希釈倍数	液量	使用回数	使用方法
麦類	一年生及び多年生広葉雑草	(秋播麦類) 幼穂形成期 但し収穫45日前まで	200～ 300g/10a	70～100ℓ /10a	本剤:1回 MCPA:1回	雑草茎葉散布又は全面散布

※幼穂形成期の目安は、麦の幼穂が約1mm、草丈20～25cmの頃。

■ 散布時期

- ・3月上旬
- ・カラスノエンドウ、スズメノエンドウが、生えそろった時期の散布がおすすめ。
- ・雑草が高葉齢でも問題ない。
- ・散布後に発生する雑草は、枯らせない。

■ 効きの速さ

- ・温度によって速さは異なるが、試験結果から1～2週間で雑草が枯れる。



散布直後



6日後



13日後



22日後

バサグラン液剤 タデの枯れ方(参考)

※ 大豆バサグランでの枯れ方

適用作物	適用雑草	使用時期	使用量又は希釈倍数	液量	使用回数	使用方法
小麦	一年生及雑草 (イネ科を除く)	生育期 但し収穫45日前まで	100～ 200ml/10a	70～ 100 L/10a	本剤:1回 ベンタゾン:1回	雑草茎葉 散布又は 全面散布
麦類 (小麦を除く)		生育期 但し収穫90日前まで				

オオイヌタデ 7葉期処理



散布当日



散布6日後



散布14日後



無処理

■ 散布時期

- ・小麦: 3月上旬～中旬
- ・大麦: 収穫90日前までの登録であるため、2月中旬までに使用する
- ・広葉雑草3～6葉期が適期。

■ 散布タイミング

- ・散布後2～3日間晴天が続く時の散布が効果的。